

# 常磐

TOKIWA  
vol. 13  
Aug. 2009



 TOKIWA

## 表紙説明

### 常磐大学高等学校校舎 本館

2000年8月竣工。男女共学化した新生「常磐大学高等学校」の船出を象徴する校舎である。地上5階建てのこの建物には、普通教室12室のほか、図書室、パソコン室、バスケットボールができるアリーナ、理科実験室などがあり、全館冷暖房が完備されている。また、最上階の5階には、年間を通して泳ぐことができる25メートル5コースの温水プールが設置されている。



イラストレーター／佐々木悟郎

常磐 TOKIWA  
Aug. 2009  
vol.13

発行日 2009年8月  
発行 学校法人常磐大学  
編集 常磐大学 広報課

〒310-8585 茨城県水戸市見和1丁目430-1  
Tel. 029-232-2511 (代)  
<http://www.tokiwa.ac.jp/>

## CONTENTS

- 1 特集 法人開学100周年  
ありがとう! 常磐は今年開学100周年  
**開学100年の歩み**  
～トキワクロニクル～ 第2部
- 7 シリーズ「常磐・ひと・歴史」  
常磐にはじまる出会いひろがる絆
- 9 シリーズ トキワの風景 学び舎編
- 10 キャンパスレポート  
学生生活の中から寄せられた声を紹介
- 11 教員エッセイ  
教員から寄せられた研究分野の魅力や逸話を紹介
- 15 TOKIWA NEWS  
トキワから旬な話題をお届けします

  
ANNIVERSARY

1975年 (昭和50) 常磐学園短期大学に教養科を増設  
 1974年 (昭和49) 創立者 諸澤みよ 逝去  
 学校法人常磐学園理事長および常磐学園短期大学学長に諸澤幸雄就任  
 1974(昭和49)年 国民体育大会茨城大会開催

1970年 (昭和45) 常磐学園短期大学附属幼稚園を開園  
 園長 諸澤幸雄  
 1973(昭和48)年 筑波大学開学  
 第1次オイルショック

1968年 (昭和43) 常磐学園短期大学に幼児教育科を増設  
 1969(昭和44)年 筑波研究学園都市起工  
 1970(昭和45)年 日本万国博覧会開催

1966年 (昭和41) 常磐学園短期大学設立認可  
 学長 諸澤みよ  
 (1月25日常磐短期大学創立記念日)  
 常磐学園短期大学を開学 (家政科家政専攻、家政科食物栄養専攻)  
 1964(昭和39)年 東京オリンピック開催  
 常磐と社会の主な出来事  
 社会の動き 茨城・水戸の発展



Part 1 過去と今をつなぐモノ

時を経て少しずつ形を変えてきたシンボルや、大切に受け継がれる記念品。たくさん歴史を見てきた品々が、今日も学生・生徒たちを見守っています。

其の壱 幼稚園

今も昔もかわいらしい、幼稚園の制服や通園グッズを集めました。

過去 1970s 【制服・帽子・バッグ】 やさしい色の制服は開園から30年以上使われていました。スモックは今もほぼ同じデザインです。

現在 2000s 【制服・帽子・バッグ】 現在の制服は、トキワカラーの緑がベース。赤い帽子もちょっとおしゃれに。2007s 体操服も、制服やバッグとおそろいの緑にチェンジ。

特集 法人開学100周年

ありがとうございます！  
 常磐は今年開学100周年

2009年の今年、学校法人常磐大学は開学100周年を迎えます。これを記念した全3回の特集。第2回の今号では、常磐の歴史にまつわる、人やモノ、思い出を紹介していきます。

第2部 短期大学開学～100年、次の一歩へ  
 戦後の経済成長と社会変化に応えながら、実学の心はそのままに大きく進化していく常磐。そして今、100年目を迎えます。

第1部 女子教育の第一歩～短期大学開学  
 諸澤みよが開いた裁縫伝習所は、やがて常磐女子高等学校へと発展します。明治から昭和にかけて激動の時代の中で、女子教育の礎が築かれました。

常磐の歩んだ100年の歴史を振り返るトキワクロニクル。第1部の前回は、その創設期を短期大学開学まで辿りました。今回は、それから現在に至るまでの発展期を追います。飛躍を続ける常磐は、一貫教育に向けて、一つずつ夢を叶えていきます。

トキワクロニクル

第2部 短期大学開学と100年、次の一歩へ

2002年  
(平成14)

- 2002(平成14)年  
ワールドカップ日韓大会開催
- 全国高等学校総合体育大会茨城県開催
- 常磐短期大学の幼児教育学科を  
幼児教育保育学科に名称変更
- 2000(平成12)年  
九州沖縄サミット開催
- 2001(平成13)年  
アメリカ同時多発テロ事件発生

2000年  
(平成12)

- 常磐大学コミュニケーション振興学部設置  
(コミュニケーション文化学科、ヒューマンサービス学科)
- 常磐女子高等学校を  
常磐大学高等学校に名称変更し、  
男女共学化

1999年  
(平成11)

- 常磐大学短期大学部を  
常磐短期大学に名称変更
- 常磐大学短期大学部附属幼稚園を  
常磐短期大学附属幼稚園に名称変更

1996年  
(平成8)

- 常磐大学国際学部設置  
(国際協力学科、国際ビジネス学科)
- 1997(平成9)年  
茨城県の人口300万人突破
- 1998(平成10)年  
長野オリンピック開催
- 1993(平成5)年  
皇太子殿下・雅子様ご成婚
- 1995(平成7)年  
阪神・淡路大震災

1993年  
(平成5)

- 常磐大学大学院人間科学研究科  
博士課程(後期)設置
- 1993(平成5)年  
茨城県立カシマサッカースタジアム竣工

1990年  
(平成2)

- 常磐学園短期大学を  
常磐大学短期大学部に名称変更し、  
経営情報学科を増設
- 1990(平成2)年  
水戸芸術館開館

1989年  
(平成元)

- 常磐大学大学院人間科学研究科  
修士課程設置

1988年  
(昭和63)

- 常磐大学人間科学部に  
組織管理学科を増設
- 1988(昭和63)年  
茨城県立近代美術館開館
- 1985(昭和60)年  
科学万博つくば85開幕
- 1989(平成元)年  
水戸市制施行100周年記念式典挙行

1983年  
(昭和58)

- 常磐大学設立認可  
学長 市村正一 副学長 諸澤英道  
(1月25日常磐大学創立記念日)
- 常磐大学を開学  
(人間科学部人間関係学科、コミュニケーション学科)
- 1980(昭和55)年  
水戸市立図書館、市立博物館、市民野球場竣工

大学：創立十周年記念式典



短期大学：幼児教育学科授業風景



大学：当時のキャンパス風景



短期大学：調理実習の様子



大学：常磐大学 開学式



短期大学：ときわ祭に盛り上がる正門



## 高等学校

常磐で一番長い歴史を持つ高校。ここには常磐の移り変わりを今に伝えるものが残っています。

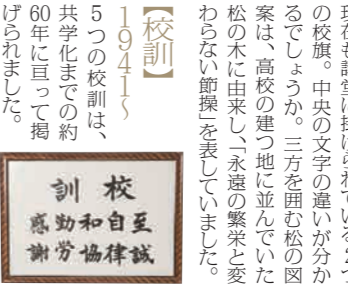


【制服】  
歴代の制服をミニチュアで保存しています。

- ① 1922年 水戸常磐女学校
- ② 1931年
- ③ 1933年
- ④ 1935年 常磐高等学校
- ⑤ 1943年(戦時中)
- ⑥ 1951年 常磐女子高等学校
- ⑦ 1966年



【校旗】  
現在も講堂に掛けられている2つの校旗。中央の文字の違いが分かるでしょうか。三方を囲む松の図案は、高校の建つ地に並んでいた松の木に由来し、「永遠の繁栄と変わらない節操を表していました。」



【校訓】  
1941〜  
5つの校訓は、共学化までの約60年に亘って掲げられました。



【トロフィー】  
1960〜  
正面玄関近くに飾られるトロフィーの数々。常磐は陸上競技に強く、高校スポーツ界にその名を馳せていました。



【トロフィー】  
男子バスケットボール部念願の県大会優勝を賞したカップと、野球部が県大会準優勝した際の楯。

【記念講堂】  
1992〜  
女学校創立から70年を祝って竣工した70周年記念講堂。コンサートの各種イベントに活躍しています。



【制服・校旗・校訓】  
2000〜  
男女共学化とともに制服や校旗、校訓も一挙に新しくなりました。ダイクグレーを基本とした制服は、組み合わせも楽しめるおしゃれなものです。校訓は、生徒たちが学ぶ各教室にも掲げられています。

## 短期大学・大学

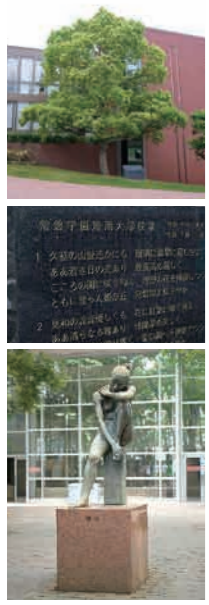
【記念植樹】  
2000〜  
学校の発展や学生の成長を願う記念品、アート作品が、キャンパスのどこかで親しまれています。



【壁画】  
1999〜  
学生食堂を彩る、松井エイコ氏によるレリーフ「発展の時」。大学の発展と若者の生きる力を象徴しています。

【校歌の碑】  
1986〜  
短大創立20周年を祝って同窓会から贈られた、校歌の碑。E棟横で見ることが出来ます。

【銅像】  
1999〜  
笹戸千津子氏が手がけたブロンズ像「燃ゆ」は、前向きに生きる強い女性がテーマ。人間科学部棟(M棟)前の広場に設置されています。



【現在の組織構成】

学校法人常磐大学

- 常磐大学大学院
  - 人間科学研究科博士課程（後期）
  - 人間科学研究科修士課程
  - 被害者学研究科修士課程
  - コミュニティ振興学研究科修士課程

- 常磐大学
  - 人間科学部
  - 心理学科
  - 教育学科
  - 現代社会学科
  - コミュニケーション学科
  - 健康栄養学科
  - 国際学部
  - 経営学科
  - 英米語学科
  - コミュニティ振興学部
  - コミュニティ文化学科
  - 地域政策学科
  - ヒューマンサービス学科

- 常磐短期大学
  - キャリア教養学科
  - 幼児教育保育学科
- 常磐大学高等学校
- 智学館中等教育学校
- 常磐大学幼稚園

2009年  
(平成21)

開学100周年を迎える(11月)

2008(平成20)年

- 北海道洞爺湖サミット開催
- 第23回国民文化祭・いばらき2008開催

智学館中等教育学校を開設  
(11月1日智学館中等教育学校創立記念日)

智学館：コミュニケーションスペース



2008年  
(平成20)

常磐大学人間科学部の  
心理教育学科を改組し、  
心理学科および教育学科を設置

常磐大学人間科学部の  
現代社会学科(組織管理学コースと  
国際学部の国際関係学科(国際協力学専攻、  
国際ビジネス学専攻)を改組し、  
国際学部に経営学科を設置

常磐短期大学の生活科学学科  
食物栄養専攻を改組し、  
常磐大学人間科学部に  
健康栄養学科を設置

大学：当時のキャンパス風景



2006年  
(平成18)

常磐大学コミュニティ振興学部  
地域政策学科を増設

2007(平成19)年

- 「ねんりんビーク」茨城2007開催

高校：コルラボを使った英語の授業



2005年  
(平成17)

学校法人名称を「常磐学園」から  
「常磐大学」に変更

常磐大学大学院  
被害者学研究科修士課程設置

常磐短期大学附属幼稚園を  
常磐大学幼稚園に名称変更

2005(平成17)年

- つくばエクスプレス開業

短期大学：創立40周年記念式典



2004年  
(平成16)

常磐大学大学院  
コミュニティ振興学研究科修士課程設置

常磐大学人間科学部の  
人間関係学科と組織管理学科を改組し、  
心理教育学科および現代社会学科を設置

短期大学：キャリア教養学科「テーブルマナー実習」



トキワ・スクラップ

これまでの常磐の刊行物に掲載された、学生・生徒の声。それぞれの時代、学生・生徒たちはどんなことを考え、何に夢中になっていたのでしょうか。

● 国際学部 国際協力学科

「周りには意欲にあふれた人ばかり。サークル仲間と水戸のF.M『はるるん』で、パソコンリタイを頑張りました。」

● コミュニティ振興学部 コミュニティ文化学科

「常磐での経験を活かし、農業おこしをビジネスにと考えています。まちを巻き込むムーブメントになれば嬉しい。」

● 人間科学部 ミニテーション学科

「この学科を選んだのは、マスコミについて勉強したかったから。夢は世界を舞台に駆け回るジャーナリストです。」

● 家政科

「やさしく、頼もしい先生方に恵まれ、家庭を築き上げる上での基礎となる生活技術などを完全にマスターできます。」

● 教養科

「多くの資格が取れるのが教養科の特徴。中でも秘書士は人気が高く、多くの学生が資格取得に挑戦しています。」

● 人間科学部 人間関係学科

「本当の豊かさとは心の豊かさだと口では言えるけど、それが何なのか。これからもテーマにしていきたいです。」

● 交換留学でアメリカへ

「文化を学びながら英語力を向上させたいです。何事にもチャレンジして、有意義な交換留学になるよう頑張ります。」

● 証券外務員資格(Ⅱ種)を取得

「エクステンションセンターの資格取得対策講座に参加。専門用語も覚えてしまえばニュースが理解できておもしろいです。」

● 智学館第1回英語暗唱大会の開催

「家族に聞いてもらったり、友達と一緒に練習したりと毎日頑張ってきたので、優勝した時は本当にうれしかったです。」

● 大学院修了生から臨床心理士が誕生

「相談に応じているのは、さまざまな障害のある子どもたち。学問的な知識と、現場でのスキルが必要なんだと実感しています。」

2009.3  
学校法人常磐大学  
学報  
「Topos. vol.52」より

2008.9  
大学・短大  
広報紙  
「TOKIWA  
GENKI NEWS  
vol.10」より

2007高校案内  
「みんな  
常磐に集まれ!」  
先輩に  
聞いてみようより

2003大学創立20周年  
記念リーフレット  
「実学、新世紀へ〜  
人の中へ、時代の中へ、  
地域の中へ」  
在学生アンケートより

1998学部案内  
「人間科学の冒険」  
人間科学部  
Document より

1987短大案内  
「常磐学園  
短期大学'87  
入学を祝  
TO FRIENDS」  
学生インタビューより





**お話を伺った方**  
 横須賀敬章さん (86年度大学卒・元事務局長、創立時からのメンバー)  
 根本知計さん (87年度大学卒・正指揮者)  
 長南直宏さん (98年度大学卒・現事務局長)



現役学生とともに  
 大学硬式野球部初  
 の全国大会を応援



パンフレットや  
 CDも作成

# 出会う ひろがる 絆

常磐にはいつの時も多くの人が集いま  
 す。先生や仲間との出合いは卒業して  
 も忘れることなく、次の世代へ、その絆が  
 広がっています。今回は、時代を超えて  
 絆を育む、2組の活動をご紹介します。



# 常磐に はじまる

法人開学100周年シリーズ  
 「常磐・ひと・歴史」

**お話を伺った方**  
 森山哲美 教授  
 (前列右から2番目)  
 ゼミ生 (4年)  
 海老澤功貴さん  
 浅野諒さん  
 ゼミ生 (3年)  
 稲見優さん  
 石橋美香子さん  
 大学院生  
 沼倉豪輔さん  
 石井要伸さん  
 小幡知史さん  
 卒業生  
 佐藤隆弘さん  
 (93年度大学卒)  
 松田和子さん  
 (98年度大学卒)  
 橋本直さん  
 (98年度大学卒)



1 世代を超えたゼミ生みんなで集合写真  
 2 実験用にハト、インコ、ハムスター、ヒヨコを飼育  
 3 いつもゼミ生が集う動物心理学実験棟



98年の森山ゼミの集合写真には、  
 卒業生の橋本さん、松田さんの姿が



常磐大学・常磐短期大学で活動する  
 常磐大学吹奏楽団のOB・OGと  
 してつづられた「TOKIWAお  
 んぶの会」。1985(昭和60)年の  
 創立から25年、現在は110名の方  
 が在籍され、演奏活動や現役学生の  
 援助を続けています。昨年、大学硬  
 式野球部が全国大会に出場した際  
 にも応援に駆けつけました。

——会ではどんな活動をさ  
 れていますか。

**長南** 自分たちの演奏会は「同  
 奏会」として、3年に1回ほど  
 開くことを目標にしています。  
 「演奏はしつかり、でも肩ひじ  
 張らずに楽しく」といった雰囲気  
 で取り組んでいて、入会してい  
 ない卒業生にも声をかけたり、  
 託児室を設けるなど、参加しや  
 すいように工夫もしています。  
 また、現役学生の援助も重要な  
 活動で、演奏指導や手伝いなど  
 要望があれば何でも行います。  
**根本** 新入会員から一期生ま  
 で、年が離れた先輩、後輩、仕事  
 も違う者同士が集まって活動す  
 るところが面白いですね。

**横須賀** 毎年有志で旅行に行っ  
 たこと思い出深いです。また縁  
 の広がりとしては、私はこの会を  
 きっかけに結婚しましたし、多数  
 のカップルが在籍していますね。

——昨年11月は現役学生  
 と、野球の応援団を結成さ

大学開学当初から開講されてい  
 る森山ゼミナール。動物実験など  
 を用いながら、行動分析学につい  
 て研究しています。人との繋がり  
 を大切にするこのゼミでは、学生  
 同士はもちろん、約20年間に輩出  
 された多くの先輩方も楽しい  
 交流があるそうです。

——森山ゼミの特徴はなん  
 でしょうか。

**4年海老澤** 先輩とのつながり  
 が濃いので、人間関係が広が  
 りますね。常磐大、仲がいいゼミ  
 だと思います。課題に加え、3  
 年生は動物の世話、4年生は後  
 輩の指導などすることが多く大  
 変ですが、一緒に関わるので自然  
 に団結感が生まれるんです。  
**4年浅野** 1年中たくさんイベ  
 ントがあります。ときわ祭で  
 は行動分析学を応用した恒例の  
 ハムスターレースを開催。お客さ  
 んも楽しんでくださいます。

**3年稲見** 私はこれから挑戦す  
 るヒヨコの実験を楽しみにしてい  
 ます。

**3年石橋** とにかく森山先生  
 が熱心な方です。個別面談をし  
 てくださるので安心して勉強で  
 きます。

**院生石井** 大学院で指導教員  
 を決める際、先生が「一緒に勉強  
 しよう」と言われ、同じ研究者と  
 して見てくださる熱意を感じま  
 した。

——院生の方も授業に参加  
 されているんですね。

**森山教授** 院生はチームのデイ  
 スカッションが沈滞しているとき  
 に話しかけ、議論を盛り上げる  
 役です。  
**院生小幡** 行動分析学は筋道に  
 沿って説明できるのがいいですね。  
**院生沼倉** ゼミ生が懸命に聞い  
 てくれるので、指導に参加して  
 よかったですね。

——卒業生とはどんな交流  
 を持たれているのですか。

**森山教授** よく集まったり、ふ  
 らりと教室に遊びに来てくれた  
 りしますよ。良い人との出合い  
 が前向きになる力を与える。人  
 間関係を築くことはとても重要  
 です。また、昨年は大規模な  
 同窓会を開催し、80人近くが集  
 まりました。今年も現役生が  
 準備を始めています。

**OG松田** この同窓会を現役  
 生が企画してくれたことがとて  
 も嬉しかったです。ぜひ継続し  
 て開催したいですね。

**OB佐藤** ゼミでは、発表を通  
 じて人に伝える技術の基礎が身  
 に付きました。

**OB橋本** 目標をひとつにした  
 ときの集団の力を知った森山ゼ  
 ミなりに、私の大学生活は語れ  
 ません。それほどゼミの影響は  
 大きなものです。  
 (敬称略)

れたそうですね。

**長南** 大学硬式野球部の全国大  
 会出場にあたり、急きょ現役学  
 生と合同バンドを結成して応援に  
 行きました。急ごしらえでも形に  
 なったのは、日頃から連携を密に  
 していたからこそだと思います。  
 これまでも、学生との何気ない会  
 話がきっかけでOBとの合同演奏  
 会を開催したことがあります。

——長年にわたって活動され  
 ている秘訣はなんですか。

**横須賀** 私たちはプロではあり  
 ませんが、指揮者の要求に応  
 える演奏ができるには限りませ  
 んが、それが納得いくものにな  
 ると、仲間意識が強くなります。  
 そうして、また次の演奏しよう  
 となるんだと思います。  
**長南** お互いが協力しあつて、  
 自分のペースを守りながらも活  
 動に参加できることも理由の一  
 だだと思います。

——みなさんにとって、会は  
 どんな存在でしょうか。

**根本** いろいろな意味でリフレッ  
 シュできるところです。  
**横須賀** 「家族」です。会員  
 みんなで喜怒哀楽を味わって  
 きました。これからも末長く  
 「TOKIWA おんぶの会」で活  
 動を続けたいと思います。  
 (敬称略)

## 「ゴミはゴミ箱に☆」

Campus Report 1

私は、ボランティアサークル「ピッカー」に所属しています。ピッカーの主な活動は、大学構内や地域のゴミ拾いです。夏休みには大洗海岸に行ってゴミ拾い活動を行ったりもしています。今年は、構内のゴミ拾いに力をいれて活動を行う予定です。

ゴミ拾いは、やろうと思えば1人でできる活動です。しかしみんなで協力することで、広い範囲のたくさんのゴミを拾うことができます。また、ゴミ拾いをした後はその場所が綺麗になるだけでなく、気分的にも気持ちがよく、達成感を味わうことができます。私たちは1つでも多くのゴミを拾い、ゴミがひとつもない環境づくりを目指して活動しています。

ゴミの中で1番多いのはタバコの吸い殻です。道を歩いていると、タバコの吸い殻が捨ててあるのをよく目にします。「塵も積もれば山となる」ということわざがありますが、全くその通りだと思います。小さなタバコの吸い殻でも、みんなで捨てれば大きなゴミになります。

タバコの吸い殻に限らず、「自分だけなら」という安易な考えでゴミのポイ捨てをする人がいます。では、そう考える人が大勢いたらどうでしょう。きっと身の回りはゴミだらけになってしまうと思います。自分がポイ捨てしたゴミは、誰かの迷惑になってい

るかもしれません。あるいは、誰かが代わりにゴミ箱に捨ててくれるかもしれません。当たり前かもしれませんが、ゴミはゴミ箱に！そうすることで自分も周りの人も快適な生活が送れるようになると思います。一人ひとりの心掛けと少しの行動で変えられるものはたくさんあると思います。みなさんのご協力よろしくお願いします。



常磐大学人間科学部コミュニケーション学科 4年 川野邊恵

## ボランティア活動を通して

Campus Report 2

私は今、図書館で読み聞かせのボランティアスタッフをしています。活動は月に一度、第二土曜日に催されているお話し会で絵本や紙芝居を子どもたちの前で披露しています。友達に誘われて昨年の夏ごろから参加し始め、私も何度か絵本を読みました。また、11月には図書館祭りという行事があり、ボランティアスタッフ一同で寸劇も行いました。

私はこのボランティア活動に参加して初めて沢山の人の前で読み聞かせをすることを体験しました。話す速さ、間の取り方、声色など、自分が普段友達の前で読むときはまったく異なり、ただの読み聞かせと言っても決して「なんとなく」で行える活動ではありません。そして、この読み聞かせという行為は、保育士を目指す私にとってはとても貴重な経験であり、プラスになる活動でもあると感じています。子どもたちの前で絵本を読むとき、どうすれば本が見やすくなるか、どれくらいの速さが聞き取りやすいか、飽きずに聞いていられるような環境をつくるには何に注意を払えばいいか。これらはすべて経験があってこそその知識になると思っています。

このボランティアの場では、自分よりずっと経験豊富なスタッフさんの読み聞かせを見ることができ、とても参考になります。また、終ってからは必ず反省会があり、その日に気になったことや改善点などを討論する時間が設けられ、毎回とても勉強になっています。

私たち2年生はこれから保育実習、幼稚園実習があります。その実習に臨むにあたって、自分が今経験していることや得た知識を存分に生かしていければと思います。そのためにもこのような課外活動の時間を大切に、頑張っていきたいと思っています。



常磐短期大学 幼児教育保育学科 2年 鈴木保奈美

SCENE #01

## 高校正門

現在の常磐大学高等学校の前身、常磐高等女学校。1937(昭和12)年に落成した女学校の校舎は、普通教室4室、裁縫・作法・家事などのための特別教室を3室持っていました。後に戦災で焼失してしまいましたが、石造りの門柱は現在も高校の敷地内に立ち続けています。



2009

### 常磐大学高等学校

2000年の共学化とともに、その年の8月からお目見えした現在の正門。毎年、この門をくぐって約400人の新1年生が入学します。



←... 1939

### 常磐高等女学校

5年越しで完成したこの門。当時の校長 諸澤道之介は自ら計画、現場を監督するほど校門の新築を楽しみにしていたようです。

# トキワの風景

学び舎編

100年の間、社会とともにさまざまに姿を変えてきた常磐。現在親しんでいる建物は、昔どんな姿をしていたのでしょうか。過去の写真に時をさかのぼってみれば、常磐の原点が見えてくるはずです。



SCENE #02

## 幼稚園園舎

幼児教育科を有する短期大学の附属機関として設立された幼稚園。現在も、大学、短期大学の研究成果の実践の場として、常磐の一貫教育の第一番目として、最新の幼児教育が行われています。そんななか、「しらかば」「ほぶら」などの組の名前は昔から変わらずに親しまれています。

1981

### 常磐学園短期大学 附属幼稚園

1970(昭和45)年に建てられたこの園舎の特徴はトンガリ帽子の赤い屋根。年長、年少が各2クラス、約160名の園児が通っていました。



2009

### 常磐大学幼稚園

常磐大学に隣接する幼稚園。緑いっぱいのトキワの森や、湧き水の豊かな水生植物園など、たくさんの自然に囲まれています。

## 土に親しむ

ここ数年私は、庭先の狭い土地を利用して野菜作りなどを行っている。前から家庭菜園や園芸には興味があったのであるが、どこか年寄り染みでいて、定年退職者の持てる時間の消化法くらいにしか思えず、余り乗り気ではなかった。しかし近所の家庭菜園を見ていると、土日ともなれば家族総出で朝から夕方まで賑わいを見せている。しかも楽しそうである。何がそんなに面白いのだろう。やってみなければわからない。これが始めるきっかけであった。

必要な道具を揃えいざ始めてみると、土起こしや畝の切り方から、堆肥の調達、苗の植え方、風除け、道具の手入れまで、これがなかなか忙しい。できるだけ自然農法でやろうとすると、東京近郊でも林が減り落葉集めに苦勞し、堆肥作りが難しい。また、経験の中で学んだことであるが、連作障害や土壌の酸性化にも注意しなければならない。連作障害は作付けを変えればよいのであるが、土壌の酸化には石灰を撒いて土壌を中和する必要がある。石灰を撒くことは知っていたのであるが、全く目的外の石灰を購入してしまった

こともある。夏には、ナス、キュウリ、ピーマン、冬には、カリフラワー、ブロッコリーなどを植えている。

私の農業は、遊びだからよいのだが、本業の農家は大変である。「作れば売れる」時代から「売れるものを作る」時代へと、国内、国際市場をめぐる環境が大きく変化しているからである。その結果、市場に回る野菜にも変化が生じている。トマトなどはその代表例で、加工用やハーパーカーなどの調理用に使われる比重が増した結果、昔懐かしい青臭い酸味のある、種が多いトマトに代わり果肉の多い甘味系のものが主流になつていく。この他、年配者には馴染みの、長人参にとつて代わった丈の短い人参、関東地方でいう京菜を改良した水菜の例がある。このように、消費者の好みや農家の栽培のしやすさ、収益性などが新品種や改良種を次々に生み出しているが、私は敢て、棘の鋭い昔ながらのキュウリ、青味臭い、あの懐かしいトマトなどを育てている。自分好きの野菜を、コストや経営を度外視して作れるのが、趣味農業の良さである。

何年か続けてみて改めて分かった

ことは、野菜も生きもの、手をかけてやればやるほど手応えがあるということである。昔、子どもの頃、農家の人達が麦の芽を踏んだり、出たばかりのジャガイモの芽を摘んだりするところを見たことがある。折角出てきた芽を何故取り除いたり、踏みつけてしまうのか、当時は不思議に思ったが、この農作業が「麦踏み」「芽欠き」といって、丈夫な麦を育てたり、規格にあつたジャガイモを収穫するために不可欠の仕事であると知つたのはずっと後のことであつた。

農業には、必要な時に、必要な為すべき仕事がある。雑草取りや害虫駆除も全く同じで、「時」は待つてくれないので手抜きができない。

本職を持つ身の私の菜園作りは、頭の中に明日への仕事の段取りや諸々のことを残しての作業なので、いわゆる達人のそれは程遠いものである。しかしこの雑念の中にも思わぬ「余録」はあるものである。例えば、麦や稲などは根が分かれて増える「ぶんけつ」という現象によつて大きな株になる。この言葉を知つたのはずっと以前のことであるが、実際に辞書にあたり、その漢字と意味に

## 二科会と出会い

人生とは不思議なもので、ほんのちよつとした偶然から、人生の方向が決まってしまうことがあるものです。とは言っても、進むべくしてそうなるのかもしれませんが。私と二科会との出会いは、偶然にも歯痛からでした!? そもそも、絵の道に進もうと美術大学受験を決めたのも、同じきっかけでした。

高校時代は、進路も考えず、絵のことも忘れて、ひたすら弓道に熱中していました。そんな時、突然虫歯になつたのです。

私が通っていた歯科医師は、小学生の頃より絵の指導を受けていた先生で、二科展にも出品されていた方で、顕微鏡で覗いた生命の営みの世界を抽象的に描いた作品で、当時の美術雑誌「みずゑ」に掲載されたりしていた新進気鋭の抽象画作家です。

その先生から、歯の治療中に「絵はずっと続けた方がいい」と言われたことがきっかけで、美大に進むことを決心したのです。そして、美大を卒業して、個展はしていたものの、公募展にも出品したいと考え、日展系にしようか、野系にしようかと迷っていました。そんな時、またしても歯痛に襲われたのです。その治療中、今度は「何処か、公募展に出して

いるの?」と聞かれ、迷っていることをお話ししました。すると、二科会の素晴らしさを話され、二科会の重鎮で後に芸術院会員になられた服部正一郎先生をご紹介して下さいました。そこから、私の二科会人生が始まりました。

二科会とは、大正3年に文部省美術展覧会(日展の前身)から若き作家達(山下新太郎、有島生馬、石井柏亭等)が飛び出して作った会で、新しい表現を重視することを伝統にしている会なのです。ですから、モデルや風景などをただ単に写した絵は、認められません。そのような絵は「真面目過ぎて面白くない。」と言われてしまいます。作者の表現意図が明確に表われていて、しかも洒落う気があり、パロッド音楽やシャンソンの様な雰囲気があればならない会なのです。

その二科展は毎年9月開催です。7・8月は制作で忙しい日々を送っていました。その間、服部先生のお宅へ、車の屋根に作品を積んで運んで行き、指導を受けました。

先生は、ただ単に上手いという絵の時は、「いいね」とだけ言われて窓の外を眺めてしまいます。とにかく、

窓の外を見られたらおしまいです。で、そうされないよう必死で制作しました。稚拙な絵であつても表現になつていけば「おもしろいね」と言われ、懇切丁寧に指導して下さいました。しかし、たいていの場合は「考え落ち」の指導で、「一番聞きたいところを言つて下さい」と言われます。指導の後には決まつてお好きなお酒と言うことになりました。ご指導いただいた「考え落ち」の答えを聞きたくて、最後まで先生におつきあいましたものでした。「このような席で、絵の話は野暮」とおっしゃりながらも、ひよつと大事な話をされるのですから…。呑んでいてもみんな真剣です。

先生は、我々若輩者とも気軽に写真などにも同行して下さいました。雲の上の存在の先生と一緒ということもあり、皆現場に着くなりキャンバスに向かうのですが、先生はフワリとスケッチブックを片手に居なくなつてしまいます。それなのに、後の展覧会にその風景を油彩画にして発表され、我々を驚かせたものでした。

写生後一杯傾けながら、「空気を味わって、それを絵にしなければ駄目だ。」と言われ、何枚ものスケッチを我々に見せて下さいました。先生は、その時の空気(風の香りや陽気、そし

ついて納得したり、尾花が秋風に揺れるのを見て、「そよぐ」ってどんな漢字を書くのだろう。余計なことばかり頭を過る。

このような、いわば雑念に満ちた農作業は楽しい趣味の時間なのであるが、ある達人にいわせると、それでは失格なのだそうである。その達人曰く。本職を持つ身なればこそ、趣味の時間には頭を空にしてこれに没頭し、仕事の時にはスパッと頭を切り換えて真剣に取り組むべきである。いつこの達人の域に達することができるとか楽しみである。



常盤大学  
国際学部 教授  
柏谷雄二

明治大学大学院政治経済学  
研究科経済学専攻博士課程  
単位取得満期退学。経済学  
修士。専門：国際経済学、開  
発経済学。国際経済学会、  
アジア政経学会員。

て草木の生命力などを味わいつつ、絵となる構図を探しておられたのです。二科展に初出品してから今日までの約40年間、二科会を通していろいろな先生方から学ばせていただいたものが、今の私の絵のスタイルとなつていきます。まだスタイルが完成したわけではありません。これからも変化して行くと思います。自分の表現を模索しつつさらに描き続けたいと思っております。

それにしても、あの時に虫歯にならなければ、今とは違った人生を歩んでいたかもしれません。虫歯菌に感謝です。



常盤短期大学  
幼児教育保育学科長 教授  
鎌田道夫

武蔵野美術大学造形学部美術学  
科卒業。専門：油彩画。二科会  
会員、茨城県美術展覧会委員。

## 体操競技指導の難しさ

私は、学生時代より体操競技を続けてきました。そして、選手ではなくなった今も体操競技と関われる仕事に就けたことを幸せに思っています。

自分の経験を元に体操競技というスポーツを一人でも多くの方に理解し、体感して頂きたく指導者の道を選びました。体操の指導にあたるようになり、大きな理想を掲げて歩みだした10年前。しかし、現在では当初の夢でもあり目標でもあった『オリンピック選手を育てたい』というよりは簡単に口に出るなくなりました。

指導者として多くの選手と向き合っていく中で、学ぶことは山のようにありました。それに伴いやらなければならぬこと、改良していかなければならない点も数多くなり、指導方法も年々多くの諸先生方のアドバイスにより改善し、進化させてきました。昨年は出来るだけ新しく、効果のある練習方法を取り入れるため、日本体育大学をはじめ仙台大学や筑波大学、駒澤大学、国士館大学など、日本のトップレベルの選手が所属し、練習環境の整った学校で合宿をさせていただき、新しい器

具にあわせた技術や練習方法を学んできました。また、赤羽のトレーニングセンターで行われたジュニアナショナルの合宿に参加した際には、インターハイ上位常連校の監督の先生方からスリッパや履物をそろえる事から、生活の細かな指導について教えていただき競技をするよりも前に大切な指導について学びました。しかし、学んできたこと全てをやることは難しく、選手を育てていくことの難しさを感じています。

私が本校に勤務し、神尾先生、滑川先生（現在磯原中学校教諭）と設立した常磐クラブで育った小学生たちは今、本校の体操部員としてインターハイ種目別優勝、全日本選手権出場など数多くの成績を残してくれています。今現在小学生や、中学生の選手達も高校生の活躍を見て大きな夢や目標を持って練習に励んでほしいと願っています。また、このような環境が長く続いているよう努力していきたいと思っています。

体操競技の指導の中で正しい姿勢や技術を選手に伝えるには、言葉だけでなく出来るだけ早い段階で実際にその感覚を実感させることがとても大切です。しかし、正し

い姿勢や技術を丁寧に選手に伝えていくには限度があり、一人で見ることの出来る人数は4・5人程度です。今年の体操部員数は男女合わせて12人で副顧問の神尾先生と二人で指導に当たっています。ならば、小中学生の体操競技指導については非常勤講師の堀内先生をはじめ、現在茨城県内で体操競技指導に当たっている数多くの先生方にご協力頂き成り立っています。指導者についても体操競技人口についても、決して満足のいく人数ではありませんが、沢山の方々に支えられ、きちんと練習出来る場所に恵まれていると言ふ事はとても幸せなことだと感じています。

採点規則の改正に伴い技の難易度も上がり、より高度な技術が必要となってきました。その為、今までより安全面に配慮した練習方法や環境が必要となってきました。我々指導者も選手と共に学び工夫をしながら成長できるように努力を続けたいと思います。

今後皆様のご期待ご支援に添えるよう頑張りますので応援よろしくお願いたします。



常磐大学高等学校 教諭  
尾西雄一

日本体育大学体育学部卒業後、紀陽銀行へ入行し3年間体操競技の社会人チームに所属。1998年から茨城県で体操クラブ指導員、非常勤講師を経て現在、常磐大学高等学校体育科教諭（体操部顧問）。



## 留学中の気の緩み

「異文化コミュニケーション」これは私が大学時代に単位をとった科目である。その当時は学んでいても、上辺だけで理解していたということに、多文化国家オーストラリアでの留学で気付かされた。

留学中、ホームステイと二つの家でシェア（複数の部屋のある家やマンションを、数人で借りて家賃や光熱費を割り勘にする方法）を体験した。タイ人、ブラジル人、フランス系オーストラリア人など、合わせて十カ国以上の人々と暮らしたことになる。

日々の生活の中では、各国の国民性を垣間見ることができてとても興味深かった。「神を信じない人が存在するなんて考えも及ばなかった。」とカルチャーショックを受けていた、高校卒業したてのサウジアラビアの男の子。「バスに乗るために並ぶなんてことは、北京ではなかった。」と言っていた中国人の女の子。新しい発見の連続で、楽しくシェア生活を送っていた。

しかし、異文化の中で育った者が一緒に住んでいるのであるから、当然ちよつとしたずれ違いが起きることがあった。「一緒に暮らしていると冷蔵庫もシェアすることになる。私のシェアしていた家でも、冷蔵庫の段の割

り振りがあった。ある朝、サンドイッチを作ろうと自分の棚からレタスを取り出すと、何だか量が減っていた。次の朝にはあるはずのレタスが見当たらなかった。冷蔵庫を探すと、ニュージールランドの女の子の段に移っていた。思い返すと、以前も冷蔵庫の中にあった物が無くなっていたことがあった。皆に尋ねてみると、やはりニュージールランドの女の子がしたことであった。一緒に暮らしている人は家族みたいなものであるから、食材が切れていたら他の人の物を一時借りて料理することはよくあると、彼女は説明した。

すれ違いのもう一つの例は、オーストラリアの女の子とピザを作ることになった時のことである。ピザの具をどうするかで意見が合わず、気まずい雰囲気のままとうとう二種類のピザを作るようになってしまった。私は、相手が自分の要求を汲み取ってくれなかったことに、不満を感じたのを覚えている。

シェアメイトとのすれ違いを何度か経験したオーストラリア滞在五カ月目に、異文化コミュニケーション学を専門とする教授の講義を受ける機会があった。その中で、私をハッとさせたのが、「真の異文化コミュニケーション

ションのためには、自分自身の文化を十分意識をしなければならず、また相手の文化を自分の文化以上に意識しなければならぬ」(Sukwiat, 1981) という言葉であった。一緒に暮らし始めた時は違いを意識していたが、お互い気心が知れてきて、私は知らず知らずのうち

に日本的なコミュニケーションの方法で相手に接し、相手にも日本的な対応を期待していたのである。一方、シェアメイトも自国の文化で妥当とされるコミュニケーションの方法をとるようになっていた。レタスの件ではニュージールランドの女の子が、ピザの件では私が自国のコミュニケーション法を適用し、相手にも自国風の対応を期待してしまっていたのである。

講義を受けてからは、できるだけ客観的に自分と相手のコミュニケーションの取り方を比較し、違いを意識するように心がけた。それでもすれ違いや納得のいかないことが起こった時は、相手に気持ちのわだかまりを誠意持つて伝えることのできる率直さ、他国の文化を理解するだけでなく自分の文化を理解してもらおうという積極性、一緒に料理をするという共同作業、そして同じものを食べて気持ちをつなげることで、これらをもって異文化であるがゆえに生じた問題に効果的に対処することができた。



智学館中等教育学校 教諭  
小沼香織

青山学院大学文学部英米文学科卒業後、私立中学・高校に6年勤務。その後、オーストラリアに留学し、The University of Sydneyにて Graduate Certificate in Teaching English as a Foreign Language を取得。英会話学校講師を経て現職。



## 人間科学部健康栄養学科・お弁当開発プロジェクト ヘルシーなお弁当で 地域の健康促進に貢献

人間科学部健康栄養学科と茨城県、セブーンイレパン・ジャパンが連携して、ヘルシーなお弁当を作成する産官学協同のプロジェクトが実施されました。開発を行ったのは、管理栄養士を目指す学生10名と指導に当たる荒田玲子准教授。完成したお弁当は4月10日から水戸市と茨城町のセブーンイレパン全49店舗で約1カ月間発売され、大きな反響を呼び、その後茨城県全域で追加販売されました。



「おあがりなんしょ! 茨城の恵み弁当」

### お弁当で啓発する地域の 食育と地産地消

このプロジェクトはセブーンイレパン・ジャパンと地域活性化包括協定を締結した茨城県からの依頼でスタート。地域の食育と地産地消の普及啓発などを目的とし



開発チームに参加した学生たち

ています。茨城県食育ガイドラインにはカロリー600キロカロリー以下、野菜120グラム以上、塩分3グラム以下の3項目が定められており、開発するお弁当はこれの中から最低1つの条件を満たさなければなりません。そこで、今回はカロリーと野菜の基準をクリアする目標を掲げました。

学生たちは2008年12月から開発に取り組み、茨城県産の安全な食材やカロリー減の調理法の選定を開始しました。また実際に販売する商品となるため、味や見た目の良さも重要で

す。食育ガイドラインをクリアした美味しいお弁当を作るため、学生たちはアイディアを出し合い試行錯誤。お弁当制作会社に何度も提案を繰り返して、多くの試作品を作成していただきながらプロジェクトは進行しました。

お弁当のメニューには、茨城県産の食材が数多く取り入れられています。おかずには、波崎港で水揚げされたサバ、久慈浜ちりめん、キングポークなどを使用。また奥久慈大子ゆばや茨城県産のみず菜などを炊き込みご飯に加えたほか、ご飯も食物繊維を摂取できる発芽玄米や七穀米などを使用して健康に配慮しています。そしてついに「おあがりなんしょ! 茨城の恵み弁当」が完成。発売を翌日に控えた4月9日、茨城県庁においてお弁当完成記者会見が開かれました。

### プロジェクトで養われた 管理栄養士の実践的スキル

会見には、株式会社セブーンイレパン・ジャパンと常磐大学の関係者が出席。会見に臨んだ常磐大学の高木勇夫学長は「地域貢献の一環として今回のプロジェクトに参加できたことは、大変ありがたいことだと考えています。このお弁当ができたことは、地域の方々の健康維持にも役立つのではない



(上) 茨城県庁で開かれたお弁当完成記者会見  
(右) 試作品を試食する荒田准教授と学生たち

## 留学生との交流

### カナダ・ハリーエインリー高校

2009年3月26日(木)、昨年に引き続き、カナダ・アルバータ州エドモントンの公立高校ハリーエインリー高校(Harry Ainley High School)より、15名の留学生と6名の引率者・学校関係者が水戸にやってきました。昨年は、本校生7名がハリーエインリー高校に3か月間の短期語学留学をし、派遣と受け入れがそれぞれ2度ずつ実現したことになります。

今回は引率者の美恵子 Ito Fedraun 先生(国際言語科主任・日本語教諭)、Robert Poole 先生(図書館司書)に加え、ハリーエインリー高校のDavid Jones 校長先生と奥様、美恵子先生のご家族もいらしていました。

26日に成田で迎え、水戸に向かうバスの中では、「こんにちは」「ありがとう」と習った日本語が留学生の間で飛び交っていました。また、途中に寄った道の駅では、おしゃべりをする vending machine (自動販売機)に驚く場面もありました。水戸に着くと、留学経験やメールでのやりとりのおかげで、スムーズに顔合わせができ、留学生たちは旅の疲れも吹き飛ばすような笑顔でそれぞれの家庭へと向かいました。

て、歓迎会を開きました。たくさんのお菓子とともにお茶を点て、途中足がしびれて立ち上がる生徒もいるのではと心配していましたが、これが日本の文化としっかり受け止め、量の上でしっかりとらえる姿が印象的でした。書道では、漢字で自分の名前を、あるいは好きな言葉や何度も練習し、最後に慎重にうわに清書しました。いいおみやげになったことと思います。お昼には、それぞれの家庭で用意して頂いた「お弁当」に舌鼓をうち、琴の演奏に耳を傾けました。見慣れぬ譜面を見ながら、琴の演奏にチャレンジする生徒も大勢いました。中でも、校長先生の奥様 Brenda Jones さんは小学校の音楽の先



生で、熱心に箏曲部の生徒の指導を受けていました。

午後は、本校のシャトルバスで水戸市内観光に出かけました。歴史館から偕楽園へと向かう途中には、旧水海道小学校や旧水戸農業高等学校の建物があり目を引きました。偕楽園の内では、吐玉泉・竹林の静寂、そして好文亭からの壮大な眺めを堪能しました。カナダの大自然とはスケールが違いますが、日本人の美に対する繊細さを感じ取ってくれたようです。最後は水戸藩の学問所「弘道館」を見学し、それぞれの家庭へと帰っていき

28日(土)は、ホストファミリーと、ショッピングをしたり水族館を見学したりと、楽しい時間を過ごしました。回転すしや本場の日本食を味わったと、留学生は大喜びでした。

29日(日)は、大型バスで東京観光に出かけました。昨年のアンケート結果から、「もう少し交流がほしい」との声を受け、計画しました。大勢のホストファミリー、浅岡校長先生そして国際交流語学学習センターの依田先生にも参加していただき、にぎやかなツアーになりました。浅草・東京都庁展望台・原宿と人込みに揉まれての観光でしたが、これもまた日本の文化と留学生は理解してくれていると思います。大崎のホテル近くの路上では、みんなが再会を約束し固い握手を交わしました。別れがたく、時間が止まっ



てほしいと誰もが願う瞬間でした。その後ハリーエインリー高校一行は、広島・長崎と旅を続け、4月4日(土)に成田からカナダへと帰っていききました。皆、10日前に出迎えたときとは違い、すっかり日本の文化に馴染み、生活を楽しんだ感がこちらにも伝わってきました。David 校長先生・美恵子先生とは、これからもハリーエインリー高校と常磐との交流が深まるようお願いを合わせていきたいと思います。お別れをしました。お忙しい中、ホストファミリーとして協力して頂いた方々に、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



SAJ猪苗代スキー学校の先生方と一緒に

SAJ猪苗代スキー学校の先生方と一緒に  
SAJ猪苗代スキー学校の先生方と一緒に  
SAJ猪苗代スキー学校の先生方と一緒に

SAJ猪苗代スキー学校の先生方と一緒に  
SAJ猪苗代スキー学校の先生方と一緒に  
SAJ猪苗代スキー学校の先生方と一緒に



スキーレッスンの様子

常磐大学幼稚園では、次の2つのねらいのもと毎年スキー教室を実施しています。

共同生活をする中で、自分とは異なる他者への思いに気付く、他者と共感しながら社会生活を営むことの喜びを味わう。

## 常磐大学幼稚園スキー教室 2009.3.26~27



お楽しみ会の様子

お楽しみ会の様子  
お楽しみ会の様子  
お楽しみ会の様子

お楽しみ会の様子  
お楽しみ会の様子  
お楽しみ会の様子

## 子どもたちが持つ無限の力 ～新学校長に小田卓爾校長就任～

開校2年目を迎えた智学館中等教育学校。2期生として86名の新入生を迎え入れ、木の質感で温もりのある校舎のなか、合計178名の生徒が毎日勉学に勤しんでいます。そんな中、新たに学校長に就任した小田卓爾校長から、学校に対する思いと智学館での抱負を語っていただきました。



小田卓爾 校長  
学校法人常磐大学評議員。慶應義塾大学名誉教授。慶應義塾大学大学院文学研究科修士課程修了。オックスフォード大学へ留学。元慶應義塾中等部長、元慶應義塾ニューヨーク学院長、元帝京大学中学高等学校長。イギリスの初等・中等教育に造詣が深い。



Schoolの語源となったギリシャ語のskholeは「学校」「講義」「議論」といった意味もありましたが、「レジャー」「余暇」「自由」といった柔軟なイメージも漂わせていました。このように、学校は、本来、自由に楽しく学びの時間を過ごすところであるはずですが、ところが、日本の初等中等教育を見回しますと、学校生活を楽しくないものにする悪循環が生じているような気がします。小・中・高・大と段階を踏むたびに、多くの子どもたちが

効率的な問題解決にあくせくし、豊かな個性とか考える力といった言葉が虚しく感じる感じがしばしばです。青春時代は「副事(ひじ)に多能」であると言われています。言うまでもなく、子どもたちの吸収力は驚くほかりです。智学館では、微細なことでも、一人ひとりの子どもたちが興味を示すものを大切にしています。大小さまざまなアイデアがひらめき、それらに取り組み、そして新しい世界を切り開いたとき、子どもたちの満たされた笑顔には未来を約束するものがあります。

こんな笑顔が日常的な智学館では、教職員と生徒たちとの密な触れ合いをとおして、子どもたちの無限の力を引き出すようとしています。6年間の一貫教育、週6日制、1クラス30名以下の少人数制、こうした大枠の中で、各教科で、各学年で、各クラスで、独特のシステムやメソッドを活用して、発展性のある授業が展開されています。



せして手厚く指導しています。問題を解くにしても、やみくもに答えを求めたのではなく、しっかりと理由や過程を理解して結論を導くようにしています。随所で、先生と生徒たちの創意工夫が輝きを放つのが見られます。ときには苦しみながらも、目前に光明を見出したとき、教室に喜びの笑顔が満ち溢れ、歓声が教室の外にまで聞こえてきます。

やがて、この木の学舎で育った子どもたちが、大学そして社会で活躍する姿を、私たちは夢んでいます。

智学館は産声を上げたばかりで、まだまだ十分でないところがありますが、それを前向きにとらえて、限りなく可能性を秘めた学校、とも考えたいと思います。これから堅固な歴史の礎を築くために、みんなで爽やかな汗をかきましょう。